＜回復期リハ病棟で多他職種と取り組んだこと＞

排泄ケアチーム

- 排泄ケア（オムツ外し）
- 転倒転落対策
- 歯科との連携
- 摂食嚥下（専門的口腔ケア、栄養面への配慮）
- ADLの向上：FIMの正確な評価、利得20点以上
- 家族勉強会、患者指導（再発予防・生活習慣病の管理）
- 活動性を上げる環境作り（ワイガヤプロジェクト）
- 機能障害への取り組み（促通反復療法など）
- 入院時からの社会復帰支援（復学・復職支援）など

＜リハ科医として、地域社会とコラボレーション＞

- 急性期病院（脳外科）への患者診察

- 自動車学校と連携しての運転技能評価
- 障害者職業センターの職業カウンセラーとの連携
- 地域のNPOと連携しての高次脳機能障害者の復職支援

- 幼稚園、保育園、学校との連携
- 療育機関情報交換会開催
  （小児科医師、療育施設、行政と連携）
- 市の就学支援相談・判定員

＜リハ科医として、地域社会とコラボレーション＞

- 患者さんに家庭復帰、社会復帰していただき、自分らしく満足のいく生活を謳歌してもらうのが私たちの仕事、と考えると、活動範囲は自然と院外へ広がる。

- リハ資源が限られている地方では特に、地域全体をリハの場として、地域住民を巻き込みながら、患者さんの生活しやすい場所や仕組みをつくっていくことも必要。

- 医療や福祉分野に限らず、様々な職種の方とのコラボは、とても楽しく、刺激的。

「生きる時、を活かす力。
リハビリテーション医学」

日本リハ医学会50周年記念キャッチフレーズ

患者さんの生活、活動を診るリハ医学。
患者さんにもっとも近い立場で寄り添えるリハ科医師。
全身管理から、リハの先端まで、守備範囲は広く、
学ぶべきことはとにかく多いので、医師としての質を保ち、
成長し続けていくことは簡単ではありませんが、
患者さん、家族、仲間の笑顔に支えられてここまで来ました。

リハ科医はやればやるほど、おもしろい！